

風俗

| 計    |       |         |            |
|------|-------|---------|------------|
| 同 二年 | 一、三六四 | 六、三九七   | 三五〇七       |
| 同 三年 | 一、二七二 | 六、七七六   | 三、五八三      |
| 同 四年 | 二、〇〇五 | 一、二、〇五〇 | 六、四三〇      |
| 同 五年 | 三、〇〇七 | 一、五、二七五 | 七、九六四      |
|      |       |         | 七、三二一      |
|      |       |         | 三、一九三 開拓使調 |

○此表、原書ニハ郡領ノ戸口ヲ一々擧ゲタレドモ、今之ヲ略シ、此ニ總計ノミヲ掲ク、

〔倭訓栞前編五〕えぞ 毛人島をいへり中文字なし繩を結び木に刻して記とす、又醫業なし、死

すれば山に埋む、其人の秘藏せし物は一所に埋み、家は焼すて、残る家内の者は別に住也、其妻三年の内かむりものし慎む、又再嫁せず、凡て易産にて、直に海に入て血のさわぐ事なし、生兒も海にあらひて虫けづく事あらずとぞ、中家は鹽がまの如く、入口まがりて、外より内は見えず、晴天に獵船を出す時は濱邊へ小屋を造り、妻子ともに居とぞ、男少く女多く、一夫に七八婦あるに至る、長壽の地なり、衣服は、木皮、熊皮、狐皮等を用う、家内にて色情をいふはいとはず、他人來居と略きに色欲の事などいへば、甚怒りて、七の償物を出す、其物は、鎗、太刀、矢筒、煙草、米、餅、衣服也、人家に入ば、三度いたゞきて禮をなす、やいくゐしかれ、去よれといふは、息災なるといふ、挨拶也、父子夫婦兄弟の間、次第分差ありとぞ、

〔東遊雜記十三〕蝦夷と稱せるは、夷の總名にして、島の名にはあらず、古書に奥州蝦夷、越後蝦夷と記せるを以て、去るべし、中今世にいふ蝦夷の地は、必ず松前侯の支配にもあらず、島の主といふもなく、領主地頭といふ事は、去らぬ所にて、日本にていふ一門々々に、ヲトナと稱せる夷有て事濟なりといふ、元より五穀不生の地、金銀錢も不通にして、おのく山に狩し、海上に漁りを業